

わたしはおねえさん

①

細案

(ピンク字はつけたい力)

一、すみれちゃんは、どんな子ですか。

○

歌を作る

のがすき

○

二年生

二、すみれちゃんのしたことは、何ですか。

○すみれちゃんが、

また一つ

歌

を

作りました。

一、課題提示

◇ ワークシートの一と二に取り組み (情報の取り出しの力: 自力で早くできた人は、詩を完成させましょう。)

二、各自課題に取り組み

三、発表する。

① 課題一

② 課題二

四、話し合う・深める (解釈・熟考の力: 先生と一緒に)

主語

すみれちゃんが、

また一つ

じゅつ語

作りました。

(言語の力)
主述関係

歌を

① 『すみれちゃんが、また一つ 作りました』からどんなことが分かりますか。」

・『歌を作るのがすき』ということ よく歌を作っている

※ ② 『すみれちゃんが、 歌を 作りました。』

← 「どんな歌を作ったの。」

「すみれちゃんはおねえさんってどんなものだと思っていますか。」
「どんなおねえさんになりたいかと思っていますか。」

おねえさん ちよっぴりえらい

やさしい
がんばる

五、課題三に取り組み (自分の考えの形成と交流)

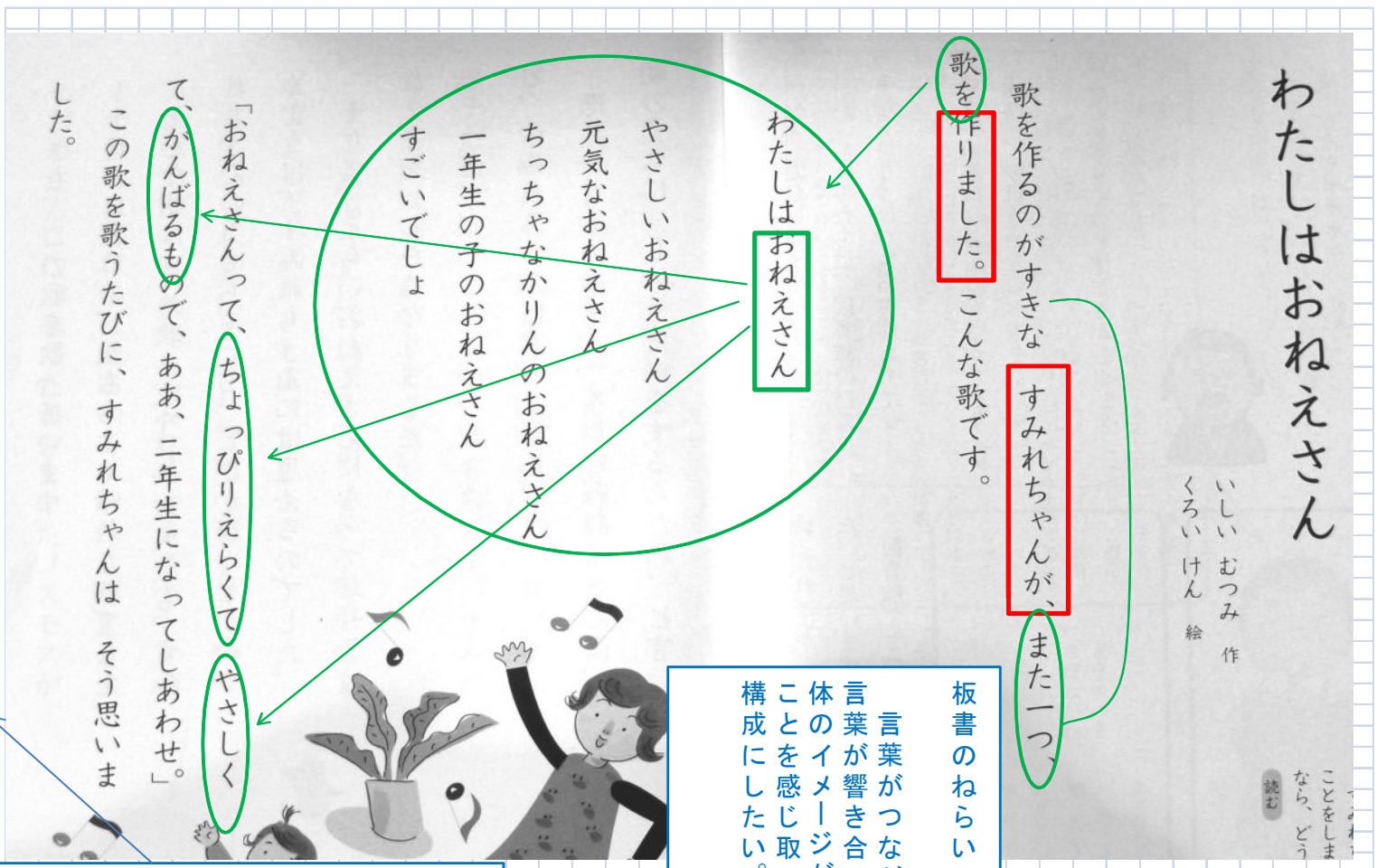
◇ は

わた

す

三、自分

板書例



歌を作りました。

すみれちゃんが、

また一つ、

わたしはおねえさん

「おねえさんって、

ちよっぴりえらくて

やさしく

て、がんばるもので、ああ、二年生になってしあわせ。この歌を歌うたびに、すみれちゃんは、そう思いました。

すみれちゃんが、

また一つ、

歌を

ちよっぴりえらい

やさしい

がんばる

板書のねらい

言葉がつながり、或いは言葉が響き合って、場面全体のイメージができていることを感じ取らせるような構成にしたい。

板書のねらい

文は主語と述語と詳しくする言葉でできていることを少しずつ理解させていきたい。

さらに、「歌を作りました。」という言葉を手掛かりに場面のイメージ化を図るといった目的があるので、本指導案では最も重要な板書である。

板書のねらい

(本時のまとめ)

この作品の中心テーマに関わることであり、他の場面の学習にも直接的に響くまとめである。

できれば、画用紙などに書き、毎時間掲示したい。

一、すみれちゃんのしたことや言ったことを書き出しましょう。

一、課題提示

◇ ワークシートの一に取り組み（情報の取り出しの力…自力で）

二、各自課題に取り組む

三、発表する。

課題一

四、話し合う・深める（解釈・熟考の力…先生と一緒に）

かくれしゅ語

すみれちゃんは、

けさも、

この歌を

じゅつ語

歌っています。

① 『すみれちゃんは、けさも、歌っています。』から
どんなことが分かりますか。」

言語の力

- ・ 主述関係
- ・ 文末表現

② 『すみれちゃんは、この歌を歌っています。』

◇ 「この歌」って、どんな歌ですか。

※ 前時の復習

◇ いろんなことを思いながら歌っていますか。

・ もっとぴかぴかとかがやくように、思えるのでした。

◇ いろんなことをしたくなりましたか。

・ えらいおねえさんになって、りっぱなことを したく
なりました。

◇ どんなりっぱなことをしようと思いましたか。

・ 朝のうちに しゅくだいをする。

◇ その時、どんな気持ちでしたか。

・ おかあさんに・・・

・ 自分から思ったときは、すごくいい気持ちです。

・ それが、ふしぎでした。

◇ それから、何をしましたか。

五、課題二に取り組み

すみれ
ちゃんは、

けさも、この歌を歌っています。

十月の日曜日の、気もちよく晴れた朝でした。
そんな朝に「この歌を歌うと、お天気も、すみれちゃんの気もちも、もっとぴかぴかとかがや
くように、すみれちゃんには思えるのでした。
そして、えらいおねえさんになって、りっぱ
なことをしたくなりました。」

「そうだ。」

と、すみれちゃんは言いました。

それから心の中で、「えらいおねえさんは、

朝のうちに「しゅくだいをするんだわ。」と言

ました。

同じことを おかあさんに言われると、あま
り いい気もちはしません。けれど、自分から
思ったときは、すごくいい気もちです。すみれ
ちゃんには、それがふしぎでした。

すみれちゃんは、つくえの上に、教科書を

広げました。
ノートも広げました。

すみれ
ちゃんは、

すみれちゃんが、

歌っています。

この歌を

したこと

歌っています。広げました。

思ったこと

思えるのでした。したくなりました。
いい気持ちがありません。など

板書例

板書のねらい

言葉がつながり、或いは
言葉が響き合って、場面全
体のイメージができてい
ることを感じ取らせるよう
な構成にしたい。

板書のねらい

文は主語と述語と詳し
くする言葉でできている
ことを少しずつ理解させ
ていきたい。

「この歌を歌っていま
す。」という言葉を手掛か
りに場面のイメージ化を
図ろうと考えている。

板書のねらい

文末表現

したこと・思っ
たことが分かる文
末表現にも少しづ
つ目を向けさせたい。

※省略してもよい
無理をしないで
さりげなく

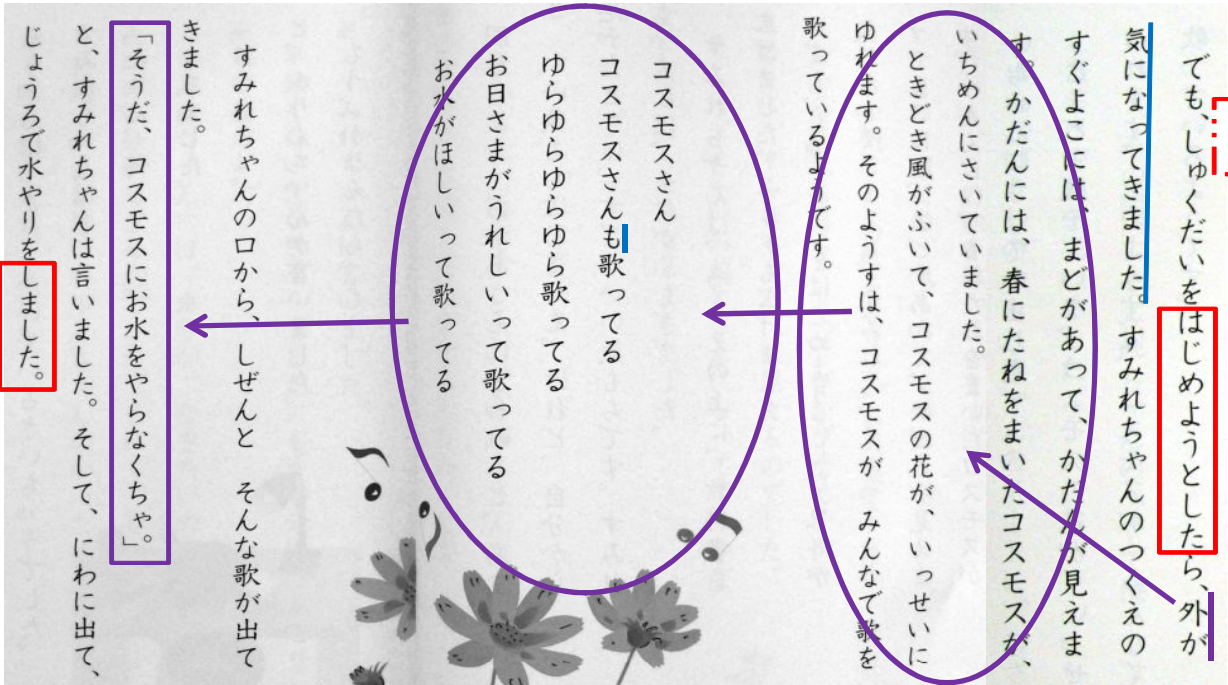
板書例

水やり ←
 コスモスの歌 ←
 コスモスの花 ←
 かだん ←
 外が 気になってきました。

すみれちゃんが、

しゅくだいを

はじめようとした。



深める発問

「宿題をしようとしたとき、何が気になつてきましたか。」

「外には、何がありましたか。」

・どんなようすでしょうね。

「それから、どうしましたか」

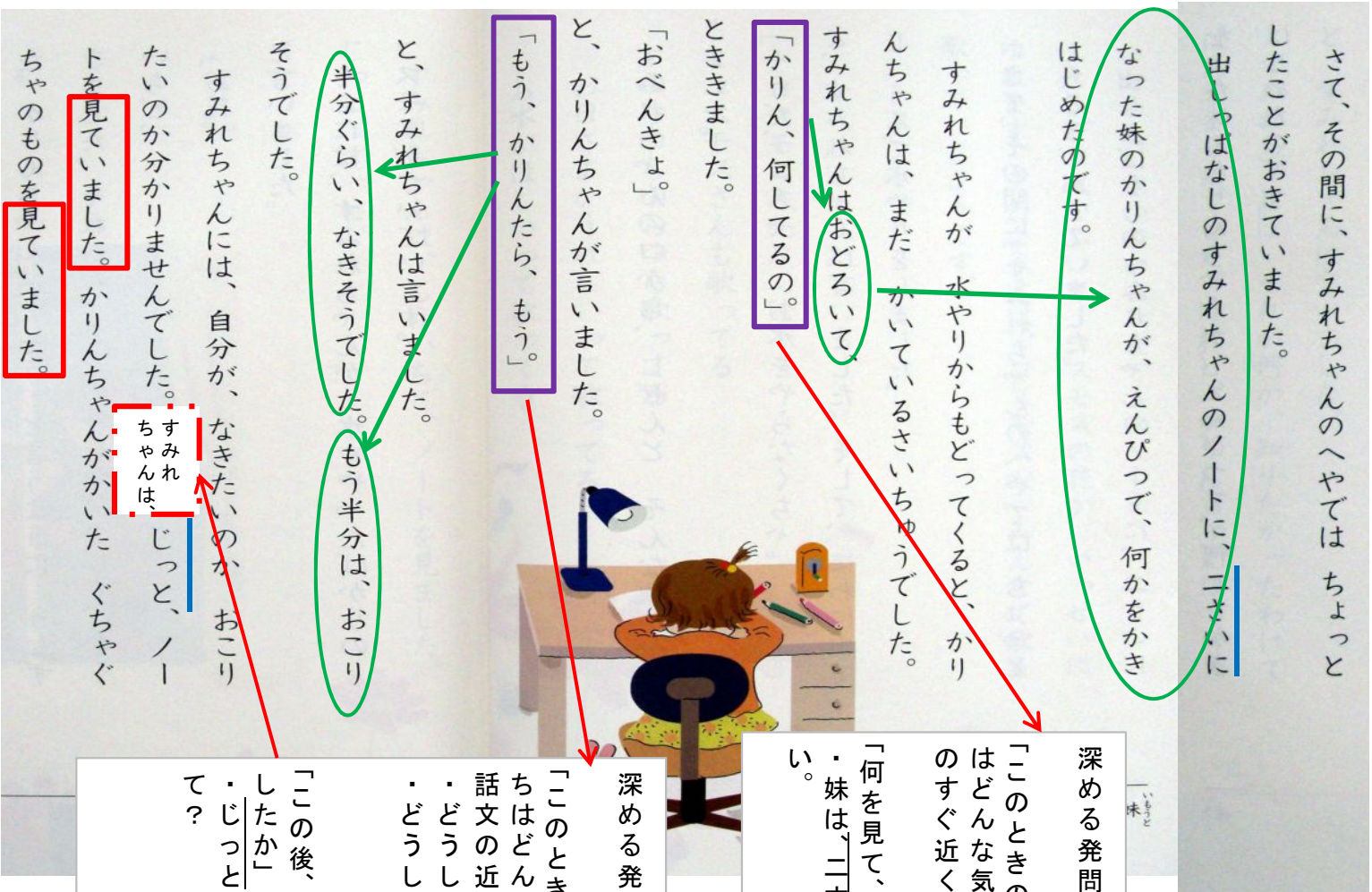
・「コスモスさん」の「も」は、どういう意味ですか。

「歌を作ってから、どんなことを言いましたか。」

「それから、何をしましたか。」

「宿題をしようとしたとき、何が気になつてきましたか。」

板書例



深める発問①
「二」のときのすみれちゃんの気持ち
はどんな気持ちですか。この会
話文のすぐ近くを書いてあるよ。」
「何を見て、驚いたのですか。」
・妹は、「二才」ということもおさえた
い。

深める発問②
「二」のときのすみれちゃんの気持
ちはどんな気持ちですか。この会
話文の近くに書いてあるよ。」
・どうして、なきそうなの？
・どうして、おこりそうなの？
「この後、すみれちゃんは何をし
ましたか」
・じっと見ていたのは、どうし
て？

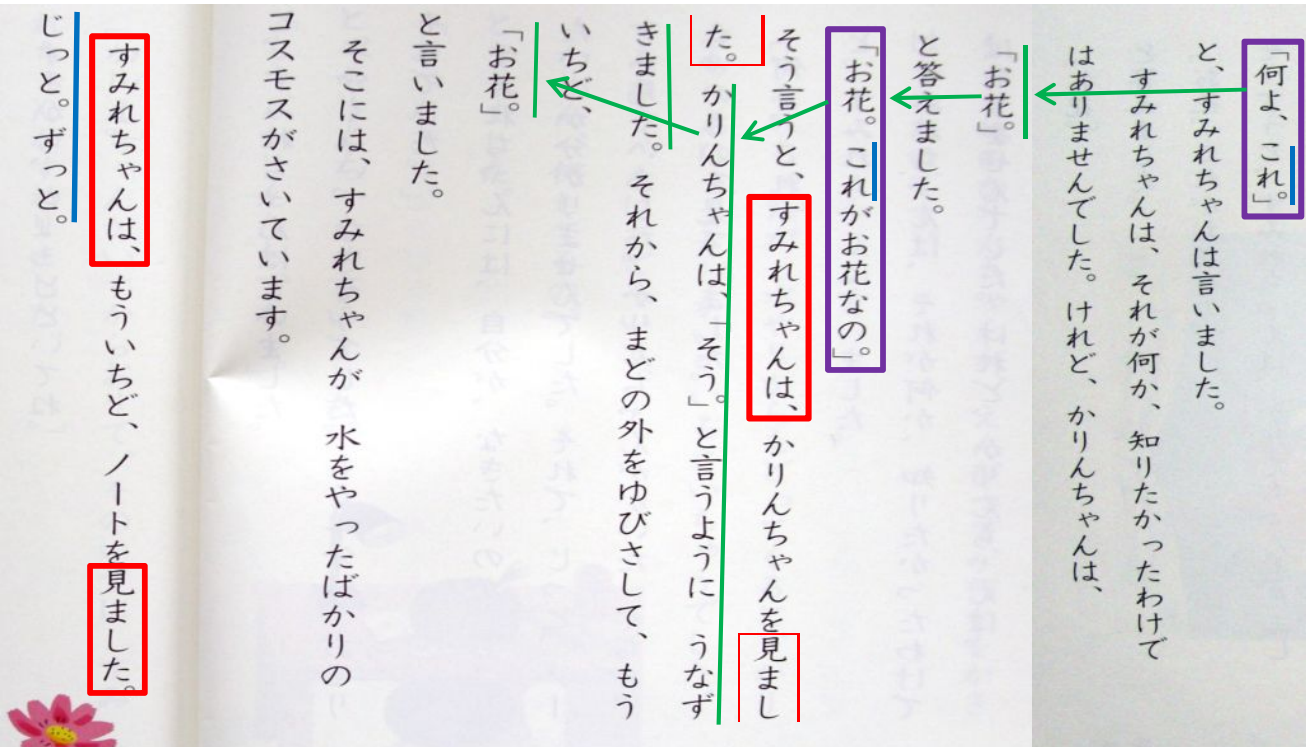
板書例

かりんちゃん

二さい

すみれちゃん

おねえさん
二年生



深める発問

(二人のやりとりをイメージ化させることが目標)

① 「何よ、これ。」

・これって何のことですか。

(前時の復習)

・すみれちゃんが、「何よ、

これ。」って言うと、かりんち
ゃんは、何と答えましたか。

・次に、すみれちゃんは、何と言
いましたか。

(すみれちゃんは、どう思っ
ていますか。)
ぐじゃぐじゃのものがお

花？

・次に、かりんちゃんは、どうし
ましたか。

② 最後に、すみれちゃんは、何を
しましたか。

・すみれちゃんは、どうして
「じっと。ずっと。」ノートを
見ていたのですか。

「あはは。」

すみれちゃんはわらいました。コスモスになんか
ちっとも見えない。ぐちゃぐちゃの絵が、かわい
見えてきたのです。

「あはは。」

と、かりんちゃんもわらいました。

それから、ふたりでたくさんわらってわらって、
わらいおわると、すみれちゃんと言いました。

「じゃあ、かりん。こんどはねえねがおべんきょう
するから、ちよっとどいてね。」

「いいよ。」

かりんちゃんがいすからおりて、そのいすに **すみ**
れちゃんが**す**わりました。

すみれちゃんは、ふではこからけしゴムを出して、
かりんちゃんがかいた絵を **け**そうとしました。
けしかけて、でもけすのを **や**めて、**すみれ**ちゃんは、
つぎのページを **ひ**らきました。

深める発問①

「すみれちゃんは、どうして笑
いだしたのでしょうか。」

『のです』…理由をあらわす

「それから、二人はどうしたの
ですか。」

深める発問②

「どうして、すみれちゃんは、消
すのをやめたのでしょうか。」

すみれちゃん

わらいました。

すわりました。

けそうとしました。

けすのを やめて、

ひらきました。